

# 2008年5月8日 茨城沖地震 (Mj 6.4, 7.0) の震源過程

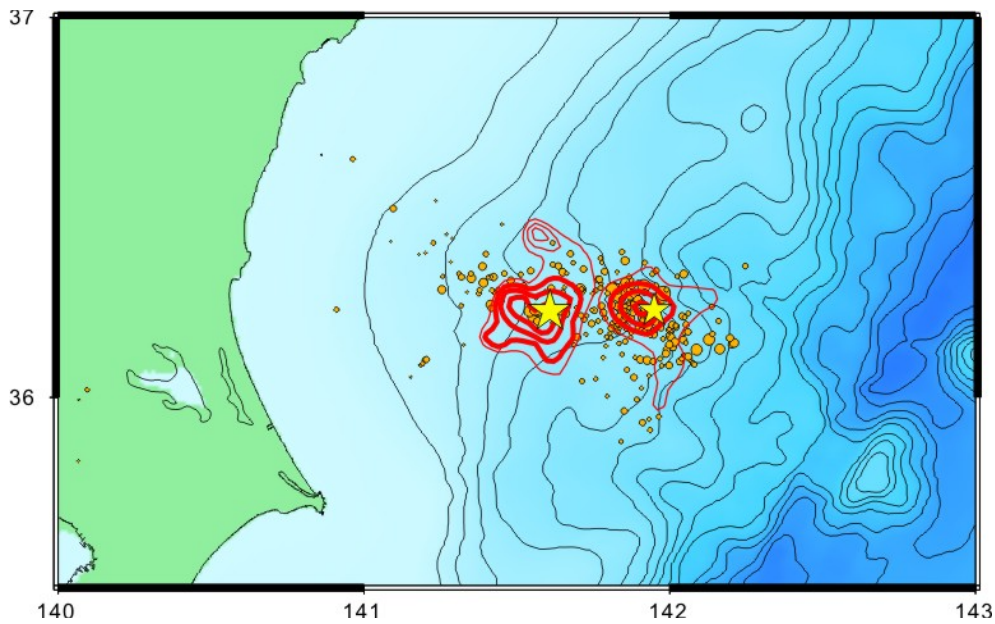
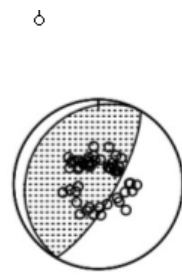
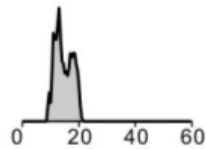


図. 遠地実体波を用いた震源過程解析結果

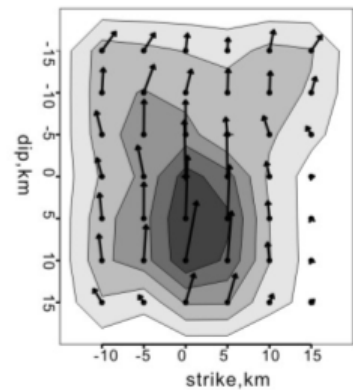
☆は気象庁による震央. コンターは1時2分については0.1m 間隔, 1時45分については0.3m 間隔で引いた. オレンジの○は気象庁による5月8日に発生した余震.

## 図 2008年5月8日1時2分の地震の震源過程

走向、傾斜、すべり角 = (207, 16, 87)  
 地震モーメント  $M_0 = 5.1 \times 10^{18}$  Nm ( $M_w = 6.4$ )  
 断層面積  $S = 20\text{km} \times 20\text{km}$   
 破壊継続時間 (主破壊)  $T = 10$  s  
 深さ  $H = 16$  km  
 最大すべり量  $D_{\text{max}} = 0.4$  m

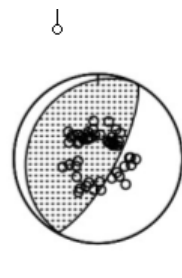
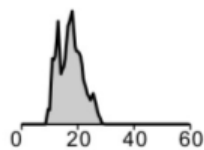


(207., 16., 87.)



## 図 2008年5月8日1時45分の地震の震源過程

走向、傾斜、すべり角 = (205, 17, 87)  
 地震モーメント  $M_0 = 3.2 \times 10^{19}$  Nm ( $M_w = 6.9$ )  
 断層面積  $S = 25\text{km} \times 25\text{km}$   
 破壊継続時間 (主破壊)  $T = 20$  s  
 深さ  $H = 19$  km  
 最大すべり量  $D_{\text{max}} = 1.7$  m



(205., 17., 87.)

